

専攻・課程別カリキュラム,主要科目の特徴・目的

(カリキュラムポリシー 「1.教育内容」より抜粋)

文学研究科 日本文学専攻 博士課程前期課程

(1) 前期課程では、日本文学(上代から近現代まで)・日本語学の各分野にわたる科目と、関連諸科目として、中国文学・中国哲学・文化史・比較文学等の科目を、2年間の教育課程として編成している。

(2) 演習科目と講義科目としての特殊研究科目とに分け、演習科目を研究指導教員による科目として位置付け、他は、演習科目と有機的に関連づけながら、専門的な知識と豊かな教養を身につける科目として編成している。

(3) 文学・テキストを対象に研究を進め、言語・人間・世界(社会)の相関を根本から問いながら、高度な思索力・学術論文作成能力・教育力等を養成し、2年次には、個々の研究テーマに即して専門性に満ちた修士論文として結実させるよう指導を行う。

文学研究科 日本文学専攻 博士課程後期課程

(1) 後期課程の科目編成は、前期課程と同様、日本文学・日本語学の各分野にわたる科目と、関連諸科目として、中国文学・中国哲学・文化史・比較文学等の科目を、3年間の教育課程として編成している。

(2) 特に、演習科目を研究指導教員による科目として位置付け、前期課程における研究をさらに深め、より専門的で高度な研究へと進展させられるよう科目編成している。

(3) 専門的で高度な研究能力・教育能力等を養成し、学界に通用する緻密かつ斬新で独創性のある博士論文として結実させるよう指導を行う。

文学研究科 中国学専攻 博士課程前期課程

(1) 「中国文学」「中国史学」「中国哲学」の3領域から専門分野を選択し、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」のいずれかを中心に学ぶ。

(2) 演習科目群では、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」といった科目の履修を通して、研究テーマの設定、文献読解力、文章表現力を育成する。

文学研究科 中国学専攻 博士課程後期課程

(1) 「中国文学」「中国史学」「中国哲学」の3領域から専門分野を選択し、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」のいずれかを中心に学ぶ。

(2) 演習科目群では、「中国文学演習」「中国史学演習」「中国哲学演習」といった科目の履修を通して、研究テーマの設定、文献読解力、文章表現力を育成する。

文学研究科 英文学専攻 修士課程

- (1)演習系列、「英文学」「米文学」「英語学」「英米文化」の4つの分野からひとつを選択し、「演習科目」を中心に専門分野を学ぶ。
- (2)講義系列、「英文学」「米文学」「英語学」「英米文化」から専門分野に関連する「特殊講義科目」を選択し演習科目との関連で広く深く学ぶ。
- (3)「ヨーロッパ文学特殊講義」では、「演習科目」と「特殊講義科目」の学修内容を広め、特に、フランス、ドイツ等の文学思潮・精神文化等を学修する。
- (4)研究方法論では研究の進め方・英文論文作成法を学ぶ。
- (5)専門分野に関連する内容の実践演習「インターンシップ実習」をする。
- (6)演習系列の専門分野の修士論文をまとめる。

文学研究科 書道学専攻 博士課程前期課程

「中国書学」「日本書学」「中国書法」「日本書道」「書跡文化財学」の5領域から専門分野を選択し、その分野の演習科目を必修として2年間にわたって履修し、関連の深い特殊研究科目を選択する。

- (1) 高度な専門的知識を修得し広い視野に立った研究ができるように、専攻科目と関連科目を設置している。
- (2) 専攻科目は、研究指導教員による演習科目と講義科目として各分野の専門的な特殊研究科目を設置している。
- (3) 関連科目には、近接の学問分野の科目を置き、さらに外国語科目も設置している。
- (4) 研究能力を養成するために演習科目を設置し、修士論文を主とした研究論文の指導および研究遂行の基礎となる文献の読解を行う。また、修了作品においては、作品制作の指導および創作の基礎となる古典の臨書および鑑賞を行う。

文学研究科 書道学専攻 博士課程後期課程

「中国書学」「日本書学」「書跡文化財学」の3領域から専門分野を選択し、その分野の演習科目を必修として3年間にわたって履修し、関連の深い特殊研究科目を選択する。

- (1) より高度な専門的知識を修得し広い視野に立った研究ができるように、専攻科目と関連科目を設置している。
- (2) 専攻科目は、研究指導教員による演習科目と講義科目として各分野の専門的な特殊研究科目を設置している。
- (3) 研究能力を養成するために演習科目を設置し、博士論文を主とした研究論文の指導および研究遂行の基礎となる文献の読解を行う。また、学界に通用する緻密かつ独創性のある博士論文の作成を目指す。

文学研究科 教育学専攻 修士課程

- ①本専攻では、(a)教育思想・制度、(b)教授・学習、(c)認知・発達の3つの小専攻をカリキュラムの基本軸としており、それぞれに属する「研究指導」と「演習」を各自の研究関心に応じて選択して学修する。これらは共に必修で、「研究指導」は二年間継続を基本とする。
- ②同時に一年次の共通必修科目（導入科目）として「総合研究Ⅰ・Ⅱ」が設定されており、これらは小専攻を問わず全院生が共修する講義科目である。
- ③さらに多様な関連講義科目である「特殊講義」がおかれているが、(a) (b) (c) の小専攻それぞれに深く関わる諸科目のみでなく、広く選択履修することができる。

経済学研究科 博士課程前期課程

- (1) 多様性を尊重する現代社会および多文化共生を意識した学び方を求められる学生のニーズに対応したカリキュラムを編成する。
- (2) 研究指導科目として理論経済学、経済史、経済政策、財政・金融論、国際経済学、社会保障などの多様な分野の経済学科目を設置する。
- (3) 導入的・基礎的な科目として理論経済学 ABC（マクロ経済学、ミクロ経済学、計量経済学）を設置し、初年度に履修することを推奨する。なお入学時点で相当の基礎知識のある学生に対しては、理論経済学 ABC（上級マクロ経済学、上級ミクロ経済学、上級計量経済学）の履修を推奨する。
- (4) 応用科目として研究指導科目に準拠した科目以外にも、公共経済学、交通経済、国際関係論、国際金融、各国経済論、ゲーム理論、経済数学などの多様な科目を設置しており、学生には専門以外の分野についても幅広い知識を身に付けることを推奨する。

経済学研究科 博士課程後期課程

- (1) 多様性を尊重する現代社会および多文化共生を意識した学び方を求められる学生のニーズに対応したカリキュラムを編成する。
- (2) 研究指導科目として理論経済学、経済史、経済政策、財政・金融論、国際経済学、社会保障などの多様な分野の経済学科目を設け、さらに関連講義科目を設置する。

法学研究科 法律学専攻 博士課程前期課程

- (1) 法律学専攻では各学生が自らの希望・選択する分野で専門的な研究を行い、学部において修得した法律知識をより確実なものとし、公務員試験など各種試験を目指すための高度な専門知識を修得できるように、憲法、民法、刑法、商法などの基本的ないわゆる六法科目をはじめ、各専門領域の科目について、演習科目と講義科目をバランスよく配置している。他方、政治学専攻では国際機関・国と地域・自治体などの制度・政策・思想・文化の歴史と現状を理解し、かつ近代化や民主化の比較研究をより多角的、総合的に進められるように、

また、具体的事例研究や実態分析を織りまぜた多角的構造分析を進められるように、政治学特殊講義などの専攻科目、現代政治論特殊講義などの関連講義科目、政治学総合研究などの導入科目を幅広く配置している。

(2) 各専門領域については、法律学専攻、政治学専攻ともに講義科目と演習科目を配置し、学生の指導を細かく行うことができるように対応している。

(3) 各専門領域に関係する分野については、総合演習（法律学専攻）や現代政治論特殊研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（政治学専攻）を用意し、学生の問題関心に対応できる科目などを用意している。

法学研究科 法律学専攻 博士課程後期課程

(1) 前期課程において修得した法律知識をより確実なものとし、博士論文の執筆を前提として、専門とする分野に関して指導教授から個人的な指導を受けることで学生自身の力で独創的な研究を行い、専門業務従事者となるための高度な専門知識を修得できるように、憲法、民法、刑法、商法などの基本的ないわゆる六法科目をはじめ、各専門領域の科目について、研究指導科目と講義科目をバランスよく配置する。

法学研究科 政治学専攻 博士課程前期課程

(1) 多様な政治制度・政策・歴史・思想を理解し、かつ比較研究を専門的かつ実践的に進められるように、「歴史」と「現代」、「思想」と「政策」、「地方」と「国際」など、複眼的視座に基づく科目を設置する。具体的には、日本政治史研究指導・西洋政治史研究指導・国際関係論研究指導・現代地方政治研究指導といった研究指導科目、国際関係・地域研究や現代政治特殊研究といった授業科目を設置する。

法学研究科 政治学専攻 博士課程後期課程

(1) 国際機関・国と地域・自治体などの制度・政策・思想・文化の歴史と現状を理解し、かつ近代化や民主化の比較研究をより専門的かつ実践的に進められるように、「歴史」と「現代」、「思想」と「政策」、「地方」と「国際」などのように、複眼的視座に基づいて、日本政治史研究指導・西洋政治研究指導・国際政治学研究指導といった研究指導科目、国際関係・地域研究や現代政治特殊研究といった授業科目を設置する。

外国語学研究科 英語学専攻 博士課程前期課程

(1) 英語学、英語教育学、言語文化学3分野にまたがる基礎的な知識及びデータ収集と処理を学ぶ共通科目群を置く。

(2) 異文化理解を深め、自分の考えを英語で発表し論文にまとめる実習科目群を置く。

(3) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野における先行研究の分析を通じて的確な判断力と自らの思考力を発展させる専攻科目、特殊研究科目群を置く。

(4) 自ら情報を収集・分析し結論を導き出して発表し、論文にまとめるスキルを養う専攻科目、演習科目群を置く。

外国語学研究科 英語学専攻 博士課程後期課程

(1) 英語学・英語教育学・言語文化学の各分野、もしくは複数の分野にまたがる広範囲な専門的知識及びデータ収集と処理を学ぶため特論科目群を置く。

(2) 英語学、英語教育学、言語文化学の各分野における先行研究の分析を通じて的確な判断力と自らの思考力を一層発展させる特別演習科目を1年次に置く。

(3) 自ら情報を収集・分析し結論を導き出して発表できるスキルを養う特別演習科目を2年次に置く。

(4) 国内外の研究領域に対し、幅広い知識と柔軟で創造的な思考を身につけ、常に情報を収集、分析し、結論を導き発表し論文にまとめるスキルを養う特別演習科目を3年次に置く。

外国語学研究科 日本言語文化学専攻 博士課程前期課程

(1) 専攻科目においては、日本言語文化学、応用日本語学における特殊研究と演習を通じて、それぞれの分野の研究方法を学ぶ。

(2) 実習科目においては、レポートや論文ならびに口頭発表の基礎レベルを学び、日本語能力を高める。

(3) 共通科目においては、言語情報処理をはじめとする分析に必要な技術を学ぶ。

外国語学研究科 日本言語文化学専攻 博士課程後期課程

(1) 専攻科目においては、日本言語文化学、応用日本語学における特殊研究と演習を通じて、それぞれの分野の研究方法を学ぶ。

外国語学研究科 中国言語文化学専攻 博士課程前期課程

(1) 専攻科目は、中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野にまたがる「特殊研究」と「演習」を通じて、専門知識と研究能力を修得する。

(2) 実習科目は、日中両語による異文化コミュニケーションの基礎的な技能や幅広い運用能力を身につける。

(3) 共通科目は、語学研究に必須な学際知識と言語情報処理の必要な技術を学ぶ。

外国語学研究科 中国言語文化学専攻 博士課程後期課程

1) 専攻科目は、中国語学・中国語教育学・中国言語文化学の三分野にまたがる「特論」と「特別演習」を通じて、高度な専門知識と研究能力を修得する。

アジア地域研究科 アジア地域研究専攻 博士課程前期課程

(1) アジア地域の政治や社会、歴史や文化など多様な分野にかんする専門的な講義科目と実習的な演習科目を中心にアジア地域研究に関する深い学識を身につける。

(2) 関連科目では地域調査方法論、地域研究実習、地域研究特殊講義といった科目の履修を通じて、アジア諸地域に共通する問題に関する理解と洞察力を深めると共に、実践的な研究方法を身につける。

(3) 各学生が希望するテーマに基づいた専門的研究が行えるよう教育課程を整備し、学生による選択の枠組みを設定する。

アジア地域研究科 アジア地域研究専攻 博士課程後期課程

(1) アジア地域の政治や社会、歴史や文化など多様な分野にかんする専門的な知識をさらに発展させ、演習科目を中心に、アジア地域研究に関する多角的な視野と高度な専門性、深い学識を身につける。

(2) 論文指導作成では、アジア地域に関する専門的研究を行うための深い洞察力と、専門家として国際的に認知・評価される研究能力を育成する。

(3) 各学生が専門的研究を行うテーマにかんして、より深い研究を推進できるよう教育課程を整備し、学生が自ら選択し、議論し、研究内容を吟味できるような枠組みを設定する。

経営学研究科 経営学専攻 博士課程前期課程

(1) 経営学、商学・マーケティング、知識・情報マネジメント、会計学の各分野から専門分野を選択し、専門性が求められる職業を遂行するための能力を育成する。

(2) 初年度に、経営学研究のための文献・資料収集の方法、プレゼンテーションの技術、論文の書き方などを指導する「経営学研究の基本技法」を基礎講義科目として配置している。また、昼開講、夜間・土曜開講、いずれにも対応ができるような科目配置を行っている。

(3) 研究科全体が、各院生の論文の方向性や執筆状況についての情報を共有し、常に質の高い論文完成に向けた指導を行う。

経営学研究科 経営学専攻 博士課程後期課程

- (1) 経営学、商学・マーケティング、知識・情報マネジメント、会計学の各分野から専門分野を選択し、より高度な専門的知識や能力を育成する。
- (2) 伝統的な経営学の領域だけでなく、国際化やICT化の進展の中でその重要性が認識されてきた新しい経営学の領域にも踏み込んで、学際的な視点から教育する。
- (3) 博士論文完成までの各段階で条件を設定すると共に、研究科全体が、逐次、研究内容及び進捗 状況を確認することで、より質の高い論文完成に向けた指導を行う。

スポーツ・健康科学研究科 スポーツ・健康科学専攻 修士課程

- (1) スポーツ科学分野と健康科学分野から専門分野を選択し、その分野の関連科目(特論と演習)を中心に学ぶ。

修士(公共政策学)

- (1) 公共政策学に関連する基本的な科目として、経済学専攻には「理論経済学」、「経済史」などが、政治学専攻には「行政学特殊講義」、「日本政治史特殊講義」などが配置されている。学生は自身の専攻に応じてこれらの科目を学ぶ。
- (2) 公共政策の立案等に必要な学問分野を学ぶための専門的な科目として、経済学専攻には「応用経済学」、政治学専攻には「現代地方政治特殊講義」などが配置されている。学生は自身の専攻に応じてこれらの科目を学ぶ。
- (3) 学生が所属していない他方の専攻が提供している入門的な科目として「経済学総合研究」、「政治学総合研究」などが配置されているので、これらを履修することを通じて公共政策学の幅広い知識を修得する。